

⑤ 授業を充実させるための Questions & Suggestions

Q 1 : 授業をする上で大切なことはどんなことでしょうか。

授業とは教師からの適切な働きかけで生徒自らが思考し、今まで知らなかったことに自ら気づき、練習や活動を通して、これまでできなかったことをできるようにすることです。またその学びを自分の生活の中に生かしていこうとする姿勢を育むことを目指して行うものです。

外国語教育の果たす役割は語学力の向上にとどまりません。今後、社会的・職業的な場面で外国語を用いたコミュニケーションを行う機会が格段に増えるでしょう。また、多民族・多文化社会には、お互いを理解し助け合いながら共に生きていく姿勢が必要とされます。基礎的な知識・技能と、それらを活用して社会と主体的に関わっていくための思考力・判断力・表現力は、生徒たちの将来的な素地として、もはや欠かせないことなのです。それらを育成するのが、私たちの英語教師の使命と言えるでしょう。

Q 2 : 生徒が自分の授業を理解しているのか不安です。

英語を通して何を考え何を学ぶかを授業計画の段階から十分に考え、授業1時間の中で「生徒に身に付けさせたい力は何か」を明確にして、授業づくりをしましょう。その上で、生徒のモチベーションを高めるために導入を工夫したり、生徒が思考力・判断力・表現力を発揮する場面をどこに設定するかを考えてみたりしましょう。また、公開授業週間などを利用して、他の教師の授業を見学させてもらうことで、授業改善のヒントを得ることもできます。

Q 3 : 授業中の言語活動に意欲的に取り組ませるにはどうしたらよいでしょうか。

授業中に行う言語活動について、その活動の目的とその活動によってどのような力が身に付くのか伝えましょう。また、できたことを褒めたり、間違いを恐れないことを称えたりしましょう。そうすることで、「難しそうだけどやってみよう!」と前向きに捉えて取り組むようになるでしょう。

Q 4 : 英語で質問して、生徒が答えられない時はどのように対応すればいいのでしょうか。

生徒が教師の英語を理解できているかを確認してみましょう。理解できていない場合は、簡単な英語で言い換えてみたり、ジェスチャーや写真など伝えるヒントになるものを使用したりするとよいでしょう。生徒の英語での発信力が不足していることも考えられます。「単語で答えてもいいよ」などと声をかけて、何が言えないのかを引き出すよう心がけます。また、言いたいことを確認した上で適切な英語表現を教え、改めて英語で答えさせることもできます。

生徒の英語力に問題がない場合は、教師の発問の仕方を変えてみましょう。一般的に、WH 疑問文よりも選択疑問文や Yes-No 疑問文の方が答えやすいものです。また、事実を問う発問は答えを知らないと回答できませんが、意見や感想を問う発問であれば答えを知らなくても回答できる可能性が高くなります。

Q 5 : 生徒が日本語訳を知りたいがります。どうしたらよいでしょうか。

「読むこと」の領域の目標は、目的に応じて必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えることにあります。英語を日本語に置き換えることが、この目標の達成のために本当に効果的かを考える必要があります。

ただし、初出の文法事項や複雑な構文が含まれた英文で生徒がつまずきそうなときは、日本語でそのポイントの説明をすることは生徒の理解を助けます。しかし、“きれいな和訳”を生徒に求める必要はありません。大切なことは、生徒が英語のまま理解できるよう、サポートすることです。

Q 6 : 文法指導はどのようにすればよいでしょうか。

英語の文法について学ぶことは大切です。特定の文法項目のみを取り上げて機械的に練習させるのではなく、言語活動に必要な文法事項を、活動を通して自然に活用できるように指導しましょう。また、文法の練習問題を進める必要がある場合も、答え合わせをした文の一部を変えて自分のことをペアで述べ合うなどの活動を行えば、やり取りの活動にも発展させることができます。

Q7：リスニング教材を使用していますが、これでリスニング力がつくのか心配です。

リスニング教材を用いてどのような力を付けさせるのかを明確にしましょう。音声を正確に聞き取らせたい場合は、音の連結や脱落などに注目して何度も聞き取らせるとよいでしょう。発音することができない音は正確に聞き取ることができないと言われていています。音の変化のパターンは限られていますので、音読を通して音の変化を体験させることが効果的です。

概要や要点を聞き取らせる場合は、事前に聞く目的や状況を示しておきます。「強く発音されている語句に注意して聞きましょう」など、具体的に何に気を付けて聞けばよいのか意識させたり、答え合わせの際には、根拠を尋ねたりすることも効果的です。

Q8：ライティングの活動で生徒に翻訳アプリを使用させてもよいのでしょうか。

書くことの論理性や内容面を指導したい場合は、翻訳アプリや添削アプリを使用することにより、言語使用の正確さの面での負担が軽減できるため、内容や論理性に集中して指導が行えます。

しかし、日本語で書いた文章を翻訳アプリで英語に翻訳した場合、生徒が理解していないような語彙や表現が使われることもあります。受容語彙と発信語彙を区別し、中学校までに学習した 2,500 語程度を発信語彙として活用できるように指導することも必要です。生徒が書いたものを基に、発表ややり取りに取り組みさせることで統合的な言語活動を目指すことも考えられます。

Q9：ライティングでは、文法や語彙の誤りを修正するべきですか。

ライティングの添削には多くの時間や労力がかかります。また、多くの誤りを一度に指摘しても生徒が処理しきれないことが考えられます。項目を絞って誤りに下線を施したり、多く見られる誤りに説明を加えたりして、生徒自らが考えて修正できるようにしましょう。

また、添削よりも、内容についてのフィードバックや書く回数を増やすことのほうが、量的にも質的にも向上するという報告があります (Semke, 1984; Rob, Ross, & Shortreed, 1986; Baba & Nitta, 2010)。

Q10：授業に余裕がなく、教科書や考査範囲をこなすことで精一杯です。

教師の役割は教科書を最初から最後まで教えることではなく、教科書を活用しながら学習指導要領に示された資質・能力を生徒に身に付けさせることです。Lesson や Part の目標をよく理解し、ポイントを踏まえて授業を行いましょ。教師が一方向的に説明するのではなく、ペアワークやグループワークに取り組みせたり、調べたことを共有させたり、考えを伝え合わせたりしましょう。教師が教える場面と生徒同士が活動する場面を意識して授業を計画することで、メリハリのある授業になります。授業の主役は教師ではなく、生徒です。生徒の主體的な学びをサポートするために、言語活動のクリエイターかつファシリテーターになることを目指すとよいでしょう。

Q11：パフォーマンステストに向けてどのように指導していけばよいのでしょうか。

パフォーマンステストで使う表現を少しずつ身に付けさせたり、パフォーマンステストと似た形式の活動を取り入れたりしましょう。例えば、パフォーマンステストで「話すこと[発表]」を評価するのであれば、プレゼンテーションの流れや使う表現を指導したり、教科書の内容でミニプレゼンテーションを行ったりすることなどが考えられます。その際に、フィードバックを行うことで、パフォーマンステストに向けて改善させていくことができます。

Q12：ICTを活用した授業はどうすればできるようになりますか。

各種研修に参加する方法もありますが、YouTube 文部科学省公式チャンネル (MEXT Channel) に掲載されている動画を視聴するのもよいと思います。視学官・調査官の解説のような堅い内容から各種授業事例まで、1本約 15 分の動画が数多く公開されています。また、StuDX Style (スターエックス・スタイル) では、端末の活用方法に関する優良事例等を数多く紹介しています。